



奈川の人口	
平成 29 年 7 月 1 日現在	
総世帯数	347 世帯
総人口	729 人
男	347 人
女	382 人

発行 奈川公民館  
 発行者 勝山裕康  
 編集者 公民館報編集委員会  
 印刷 (株)プラルト

# 森の健康診断



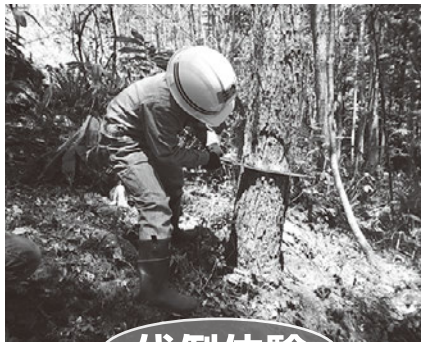
5月19日、奈川小中学校におけるみどりの学習の一環として、小学4・5年生を対象とした「森の健康診断」を開催しました。新緑の山林に足を運び、人工林の調査や伐倒体験を通して森林環境学習を体感しました。

調査に入ったのは、人による手入れが必要な人工林。植生調査・光の差し込み具合の観察など、森の状態を診断しました。

伐倒体験では、のこぎりやロープを使い、みんなで力を合わせて高さ21メートルものカラマツを伐りました。

子どもたちからは「すごく勉強になった。森や木のことがかかったから、忘れないようにしたい」「もっと観察したいと思った」などの声がかれました。

奈川で暮らす子どもたちにとって身近な山や森。その存在の大切さを改めて考えることができました。



伐倒体験

のこぎりでの切り口を入れて…



ロープをかけてみんなで引っ張る！

# すこやかウォーキング

in 岡谷鶴峯公園

5月9日、つじの名所として知られる岡谷市の鶴峯公園に、普段から健康に気を付けている地区の住民25名が訪れました。

鶴峯公園ではつばみのつつじが多かったものの、所どころ美しく開花しているつつじを楽しみながら、柔らかな日差しの中を散策しました。



# 七夕かざり

6月上旬、文化センター夢の森ロビーに七夕スペースが登場。放課後子ども教室の子どもたちが短冊に願い事を書いて飾り始めると、一気ににぎやかになりました。夢の森を訪れた方々も足を止め、願い事の内容に目を走らせたり、どんなことを願おうかと、少し悩んでから書き始める方もいました。

一人一人が短冊に託した願い事。たくさん叶うといいですね。



願い事叶うかな

心地よく身体を動かした後には岡谷名物のうなぎやカツを堪能し、心も身体もすこやかなひとときを過ごしました。

# 野麦峠まつり

5月28日、ながわ観光協会主催の第35回野麦峠まつりが開かれました。

晴天に恵まれた中、旧野麦街道1・3キロを歩く記念山行と、峠山頂広場ではイベントとして特産物販売や太鼓演奏などが行われました。記念山行では工女や歩荷などに扮した奈川小中学校の子どもたちや先生をはじめ、留

学生や一般参加者を含む約160人が山中の旧街道を歩きました。

山行の終盤では道中のお地藏様や、工女たちの苦労をねぎらい建立された「乙女地藏尊」に小菊をそなえて手を合わせ、かつて野麦峠を歩き交わった人々に敬意を表しました。岐阜県側の県道が通行止めとなっていたものの、峠山頂

広場ではウド汁や山菜おこわが完売するなど大いに賑わいました。



▶お地藏様に小菊をそなえて手を合わせる

## 爽快!

# トレイルランニング



ランナーを癒す乗鞍岳の絶景

第7回野麦トレイル10マイルレースは、5月20日に320名の参加者と、地域のスタッフ50名の協力を得て開催されました。

## 奈川地区社会福祉協議会主催 花いっぱい事業

6月15日、奈川地区ほのぼの広場駐車場にて花いっぱい事業が行われました。これは奈川地区を色とりどりの花で満たそうと社会福祉協議会が主催して毎年行っている事業で、今年も住民23名がお手伝いしてくれました。プランターに赤や黄色が鮮やかな花をつけた苗を丁寧に植えていき、40個以上はあったであろう大小さまざまなプランターが



元気な花たちでうまりました。デイサービスセンター周辺の草刈りも同時に行われ、さわやかな風の中、一生懸命作業をしていました。

プランターは、地区内の各事業所や町会に配られ、奈川の短い夏の始まりに彩りをそえていました。

今回も快晴の空のもと、つらい坂を上りきった後に見えた乗鞍岳の山並みの壮大さに疲れが癒されました。レース後半の自然観察路は適度なアップダウンが続き、快適だったようです。

参加者の皆さんから、地域のスタッフの方々のおもてなしに、感謝のお言葉を沢山いただきました。

## 野麦路

初めまして、櫻井です。新しく館報編集を担当させていただくことになりました。

奈川に通うようになって初めて体験したのが、そば打ちです。食べる専門だった私に作るチャンスが訪れたのです。

そば打ち体験当日。先生は鮮やかな手さばきで、サラサラのそば粉からそばを生みだしていきます。その様子はまるで魔法のよう。私はそば打ちの魔法は使えないので、ヨイショ、エイヤと見よう見まねでそば打ちに挑みます。できあがったそばは、太さは揃っていないもの、確かにそばの姿をしており、胸にじんわりと感動が広がりました。その後はお楽しみみのひとときです。胸高鳴りながらそばを調理し、口に運びます。広がるそばの香り。うどんのような太さのそばがあるのはご愛嬌。初めて自分で打ったそばは、欠点も含めてとても味わい深いものでした。(櫻井由希子)